

製品名: MRCK β ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14082**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	194kDa

抗原情報

遺伝子名	CDC42BPB CDC42BPB; KIAA1124; Serine/threonine-protein kinase MRCK beta; CDC42-binding protein kinase beta; CDC42BP-beta; DMPK-like beta; Myotonic dystrophy kinase-related CDC42-binding kinase beta; MRCK beta; Myotonic dystrophy protein kinase-like b
別名	
遺伝子 ID	9578.0
SwissProt ID	Q9Y5S2
免疫原	抗血清はヒト MRCKB 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1641-1690

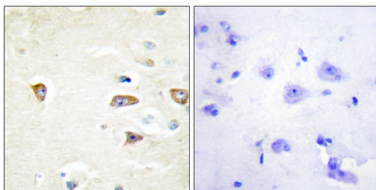
背景

この遺伝子は、セリン / スレオニンタンパク質キナーゼファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は、PAKキナーゼに類似したCdc42/Rac結合p21結合ドメインを有しています。このタンパク質のキナーゼドメインは、筋強直性ジストロフィーキナーゼ関連遺伝子ROKのキナーゼドメインに最も近縁です。ラットにおける類似遺伝子の研究から、このキナーゼは細胞骨格再構成においてCdc42の下流エフェクターとして作用する可能性が示唆されています。[RefSeq提供、2008年7月]触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。酵素調節: キナーゼドメインと負の自己調節性C末端コイルドコイル領域との相互作用により、不活性な閉じた構造を維持します。ホルボールエステル結合部位へのアゴニストの結合はこれを阻害し、キナーゼドメインを解放してN末端を介した二量体形成とトランスオートリン酸化によるキナーゼ活性化を可能にする。機能: 細胞骨格再構成においてCDC42の下流エフェクターとして作用する可能性がある。MYPT1の調節、ひいてはMLC2のリン酸化を介して、細胞侵入に必要なアクチンミオシン収縮に寄与する。配列注意: コンタミネーション配列。ポリA配列の可能性はある。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。AGC Ser/Thrタンパク質キナーゼファミリー。DMPKサブファミリー。類似性: AGCキナーゼC末端ドメインを1つ含む。類似性: CNHドメインを1つ含む。類似性: CRIBドメインを1つ含む。類似性: PHドメインを1つ含む。類似性: ホルボールエステル/DAG型ジンクフィンガーを1つ含む。類似性: タンパク質キナーゼドメインを1つ含む。細胞内局在: 点状に分散して分布し、細胞周縁部、特に細胞先端部と細胞間接合部に集中する。この濃度はPHドメイン依存的である。サブユニット: コイルドコイル領域を介してホモ二量体およびホモ四量体を形成する。GTP結合型CDC42とは強く相互作用するが、GDP結合型CDC42とは強く相互作用しない。組織特異性: 検査したすべての組織で発現し、心臓、脳、胎盤、肺で高レベルに発現する。、

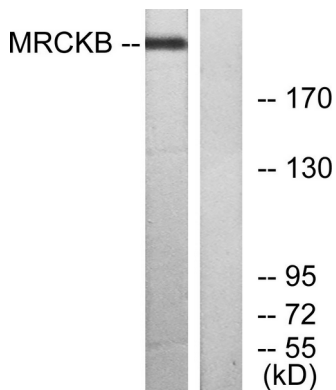
研究分野

-

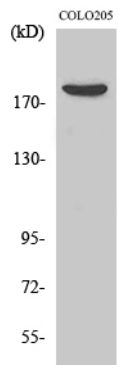
画像データ



MRCKB抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



MRCKB抗体を用いたCOLO細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



MRCK β ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析